

事務事業名	真岡線愛護会参画事業				担当	総務部 総合政策課 企画調整係		
政策名	A	暮らしやすさが実感できるまちづくり			増補版施策名			
施策名	5	公共交通ネットワークの整備			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和62 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1総務管理費	6企画費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	この会は真岡線を愛護し、真岡線の利用促進及び地域住民の利便性の確保を目的としている。茨城県筑西市を含む真岡鐵道沿線2市4町の関係者により構成される。 真岡線愛護会の主な事業：無人駅清掃委託、真岡線利用促進の為の各種事業を実施 会 員：沿線各自治体の首長、議長、商工団体の長、はが野農協組合長、沿線高等学校長、真岡線利用通勤者代表、農業共済組合長 運輸業者の代表、真岡工業団地総合管理協合理事長 会 長：真岡市長 事務局：芳賀地区広域行政事務組合							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 30年度実績 会議への出席、各事業への支援 31年度計画 29年度実績と同様		⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 事業数	事業	6	6	6	6	6
		イ 会議回数	回	2	2	2	2	2
		ウ						
		エ						
		オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 真岡線愛護会 真岡鐵道沿線2市4町の住民		⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 会員数	団体	30	30	30	30	30
		イ 2市4町の住民数	人	250,790	249,948	245,984	242,796	242,800
		ウ						
		エ						
		オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 真岡線を利用してもらう		⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 真岡鐵道利用者数（鉄道一般）	人	991,669	962,573	946,528	936,958	950,000
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 真岡鐵道の安定した経営を支援		⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 真岡鐵道営業係数（鉄道一般）	—	115.7	112.3	112.1	127.0	127.0
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	374	374	374	378	378	
	事業費計(A)	千円	374	374	374	378	378	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	8	8	8	8	8
		人件費計(B)	千円	34	33	33	33	33
トータルコスト(A)+(B)		千円	408	407	407	411	411	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	昭和63年に真岡鐵道株式会社による真岡線運行が開始し、真岡線廃止反対期成同盟会が廃止されたことに伴い、同会を継承する形で真岡線愛護団体として設立され、設立当初から参画している。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	高校の生徒数が減り真岡線の通学者が減少している。 自動車通勤者が増え真岡線の通勤者が減少している。 平成6年度をピーク（1,665,719人）に利用者は減少傾向にある。平成25年度以降についても利用者は減少しており、特に少子化に伴う沿線高校のクラス減により通学での定期利用等が減少している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	栃木県関係市町が一体となり、引き続き地域の重要な公共交通機関としてその機能を持続的に展開できるよう積極的な財政支援をしていくことが必要である。（真岡市議会）